



第 49 回

日本心臓血管外科学会学術総会が

2月11日(月・祝)～13日(水)

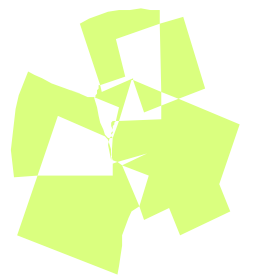
岡山コンベンションセンターにて

開催されます。

当院からは、

血管外科センター長 今井 崇裕 先生が

学術発表されますのでご紹介します。





JSCVS 2019

The 49th Annual Meeting of the Japanese Society for Cardiovascular Surgery

第49回

日本心臓血管外科学会学術総会

Ever Upward Together



会期：2019年2月11日(月・祝)～13日(水)

会場：岡山コンベンションセンター・岡山県医師会館 他

会長：種本和雄(川崎医科大学 心臓血管外科学)

演題募集期間

2018年

7月2日(月)

9月10日(月)正午

総会事務局：川崎医科大学心臓血管外科学 柚木靖弘
〒701-0192 岡山県倉敷市松島577
TEL:086-462-1111 FAX:086-464-1189

運営事務局：株式会社メッド
〒701-0114 岡山県倉敷市松島1075-3
TEL:086-463-5344 FAX:086-463-5345
E-mail:jscvs2019@med-gakkai.org

パネルディスカッション

下肢静脈疾患の治療困難症例への対応

「治療困難な再発性下肢静脈瘤の 70%は困難ではない」

70% of recurrent varicose veins with difficult treatment are not difficult

西の京病院血管外科 今井崇裕

【はじめに】 下肢静脈瘤の治療は 2011 年に血管内焼灼術が保険適応となったことで大きく変わったが、依然として遠隔期の再発には課題を残しており、治療が困難な症例が存在する。下肢静脈瘤の治療後、再発で受診した症例を超音波および MRvenography 検査で評価した。【対象】2013 年 1 月-2017 年 12 月の 5 年間。対象は下肢静脈瘤手術 2,760 例中、再発で受診した 193 例(7.0%, 男/女比 28/165, 平均 68.0±9.6 歳)とした。【方法】血管内焼灼術は Laser980nm, Laser1470nm, Closure FAST を使用した。検討項目は、初回治療に関する内容(治療施設および診療科, 治療内容, 再発自覚までの期間, 治療後から受診までの期間), 再受診時の状態(臨床病期分類, 再発原因血管, 施行した治療内容, 複数回受診患者数)。

【結果】初回治療に関する内容(自/他施設比 12/181 例, 心臓血管外科 58/一般外科 64/皮膚科 8 例など, 硬化療法 46/ストリッピング 41/高位結紮 22 例など, 自覚は平均 6.6±7.4 年, 1 年未満 33/1-3 年 18/3-5 年 14 例など, 受診は平均 12.6±8.8 年, 1 年未満 3/1-3 年 17/3-5 年 13 例など)。再受診時の状態

(C1:18/C2:104/C3:14/C4a:27/C4b:15/C5:10/C6:5 例, GSV:103/SSV:36/穿通枝:14 例など, ストリッピング 72/血管内焼灼術 65 例など, 3 例)。【考察】自施設再発は 4 例(2%)で、ほとんどが他施設で治療されていた。治療内容を正確に把握していた患者は 90 例(46.6%)であり、当科では再発例の治療方針を決定するため、術痕の正確なマーキング, 超音波と MR venography 検査を施行している。今回の検討で再発 193 例中 139 例 (72%) が伏在静脈の標準的治療で対応可能で、初回の適切な治療で再手術に至らなかった症例が多くみられ、これにより再発例は 54 例(2%)に減少する。再発症例において、われわれ専門家は特殊な症例や治療へ関心が向くが、まず初回受診時に適切な治療を行うことが治療困難な症例を新たに作らないことに繋がっている。【結語】治療が困難とされる再発性下肢静脈瘤において、その 70%は困難な症例ではない。